

農林技術会議  
指導資料  
平成15年1月

# 千葉のヤマウド優良品種

—優良品種の特性と栽培法—



千 葉 県  
千葉県農林技術会議



最近、山菜は自然食品、健康食品として関心が高く、なかでもヤマウド（ウド）は鮮烈な香りと独特の風味から人気が高まっています(1)。そこで、千葉県内に自生する優良と考えられるヤマウドを収集し、選抜を行ないました(2)。栽培方法は、林地でそのまま栽培でき、食用に適した部分が多く収穫できる竹筒を用いた軟化栽培法(3)を3年間行い、収穫時の形質や早晩性について調査を行ないました(写真1)。加えて、軟化栽培より野生的なウドを手軽に楽しみたい場合を考慮して、軟化処理をしない栽培における形質についても調査を行ないました。

## I 選抜品種の特徴

千葉県内の各地から収集した100クローンのヤマウドについて、軟化栽培の形質を調査した結果、特に19クローンが優良と認められました。このうち、現在普及している伊勢白、愛知紫、坊主などと比較して、2週間程度収穫が早くなる早生で毛の少ない3クローン及び、さらに1週間程度収穫が早い極早生の1クローンを、千葉のヤマウド優良品種として普及を図ることにしました(表1、写真2～4)。これらは在米種よりも早期に収穫でき、茎葉が白色、茎長が長く、毛もほとんどない等の良好な形質を持ち、市場価値が高いと考えられます。

また、これらは軟化処理をしない栽培においても、早生や毛の状態は同様の性質を見せることがわかりました。軟化処理しない場合には、軟化栽培した場合に比べ相対的に、茎が短くて葉柄が長く、葉が開帳する野生味豊かなヤマウドが1週間程度早く収穫できます(写真5～6)。

## II 栽培方法

### 1. 適地

ヤマウドの一般的な適地は、明るい林内や林縁部、畑などの日当たりと通風が良いところで、土壌は有機質に富む排水の良い壤土を好みます。また、施肥しなくても生育しますが、施肥した場合は肥培効果が期待できます。

### 2. 増殖方法

増殖法には株分けや実生などがありますが、実生は発芽が困難なため、株分けが一般的です。株分けは芽が動き出す以前の2月頃に大きくなった株を掘り取り、芽が1個以上つくように包丁等で切り分けます。

### 3. 植付け

芽がまだ動かない3月上旬頃までに、根株の芽を上に向けて植え込みます。植栽本数は1㎡当り2本程度とし、覆土は株の大きさにもよりますが1～5cm程度とします。

### 4. 収穫

収穫は植え付けた翌年の春からできますが、根株が小さい場合は収穫せずにもう1年養成させます。軟化栽培をしない場合は、芽が20～30cmに伸びた頃、刃物で根元から切り取ります。その後に萌芽してきたヤマウドは収穫せず、根株を養成させます。

竹筒などを用いた軟化栽培は食用に適した部分が多く収穫できます。収穫法は3月下旬～4月上旬頃、地上に出始めた芽に節を抜いた1mほどの竹筒をかぶせます。立てた竹筒は支柱で固定し、上部は新聞紙等を丸めて蓋をし、地際は土を寄せて日光の侵入を防ぎます。そして1～2週間後、60cm以上に成長したところで竹筒を取り除き、刃物で根元から切り取ります。

## III 普及上の留意事項

選抜品種の味や香りは現在普及している品種と同等以上と思われまので、今までにない早期の収穫と見ための良い毛の少ない特性を生かした付加価値の高い出荷が可能と考えられます。しかも、まず野生味豊かな軟化処理しないもの、続いて食べやすい軟化処理したものが連続して収穫可能です。

ただし、気象害、病虫害抵抗性など未知の部分もありますので、大規模に栽培する場合には単一品種を用いず、被害の早期発見、防除が重要です。



なお、ヤマウドの栽培・収穫は季節性が強く、一度植栽すれば収穫時以外は手間がほとんどかからないことから、専業栽培よりも農林家の副業に適していると考えられます。また、自家用として畑の隅や林内（林縁部等の明るいところ）などで栽培するのにも適していると考えられます。

（執筆者 千葉県森林研究センター 上席研究員 岩澤勝巳）

#### 参考文献

- (1) 藤縄登志男 (1987)：特産シリーズ 56 ヤマウドー、105pp、農山漁村文化協会、東京
- (2) 岩澤勝巳・石谷栄次 (2001)：千葉県における優良なウドの選抜、千葉県林試研報 10、49～54
- (3) 石谷栄次 (1987)：竹筒を使用したヤマウドの収穫、日林関東支論 39、299～300

表-1 ヤマウド優良品種の特性

品 種 名	軟 化 ウ ド の 特 性			
	早晩性	茎長	色彩	毛
<b>選抜品種</b>				
千葉18号 (房州無垢1号)	早 生	普 通	白 色	極 少
千葉70号 (房州白)	早 生	長 い	白 色	少 ない
千葉95号 (房州無垢2号)	早 生	普 通	白 色	極 少
千葉98号 (房州早生)	極早生	長 い	白 色	普 通
<b>在 来 種</b>				
愛知紫	晩 生	普 通	白 色	多 い
伊勢白	晩 生	普 通	白 色	多 い
坊 主	晩 生	普 通	白 色	多 い

( ) は各品種の仮称



写真-1 竹筒を用いた軟化栽培状況



写真-2 軟化栽培をした選抜品種



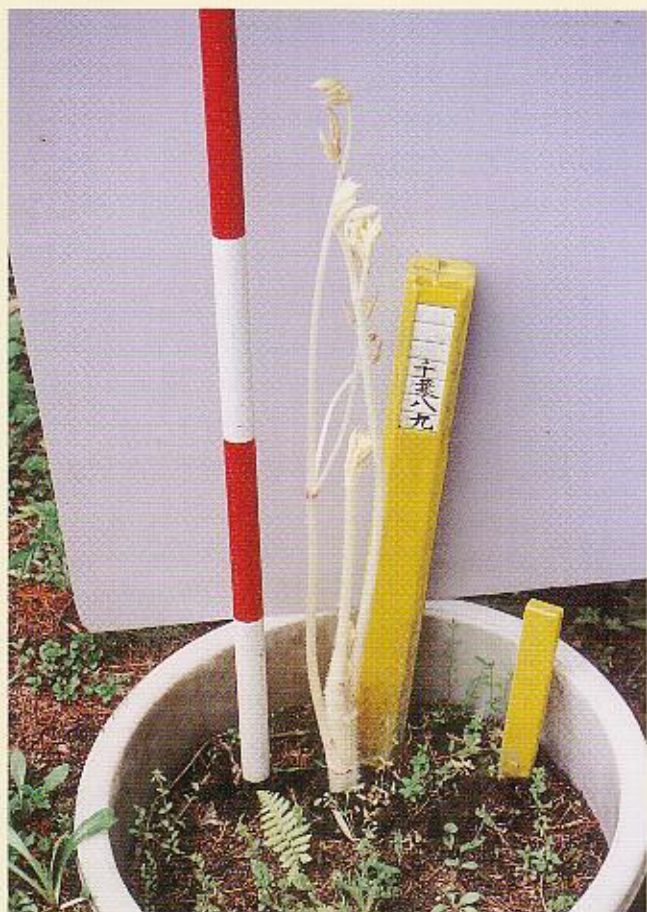


写真-3 軟化栽培をした選抜されなかったヤマウド



写真-4 軟化栽培をした在来種の愛知紫



写真-5 畑における栽培状況



写真-6 軟化処理をしないで収穫